

平成二十七年二月投句

【櫛田神社

（節分祭）

雉の眼の閉じし窪みや猟名残

四つ目垣に頭を預け水仙花

笹鳴の声高々と春立ちぬ

フードにも飛び込む一つ年の豆

ほうほうと声かけあひて猟名残

山容を浮かびあがらせ山火かな

園児らは前に集めて豆を撒く

豆撒の鬼に抱かれて泣く子供

同じ豆拾はんとして笑ひあひ

勝利

鬼やらふ声に小走り境内へ

撒かれたる豆の踏まれて追儼かな

一日に一つ事して寒明くる

福の門低くくぐりて節分会

大通り隔てし寺も豆を撒く

豆撒の都度に素通りできぬ友

佳与子さん来て恒例の鬼やらひ

大泣きに鬼も戸惑ふ鬼やらひ

木の芽吹く杞陽師系にゐる誇り

光子

真理子

由紀子